

平成最後の12月

校長 狩野博臣

小春日和。晩秋から初冬にかけての暖かで穏やかな晴天を指すこのことばに、日溜りの光景が浮かび、心がほっこりします。小春の「小」という接頭語には、春よりも期間が短く、小さいものをいとおしいと感じる気持ちが込められているそうです。アメリカでは“Indian summer”と言います。春(spring)ではないのが面白いですね。

その小春日和の11月23日、妻と二人で九州オルレ南島原コースに参加してまいりました。オルレは韓国・済州島から始まったもので、もともとは済州の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味とのこと。今では海岸線や山などの自然、民家の路地などを歩くトレッキングコースの代名詞になっています。九州内に21もの「オルレ」のコースがあるようです。南島原コースは10.5kmの道のりで、じゃがいも畑やレタス畑の間のあぜ道、山林の中、また玄武岩の海岸など車では走れないようなバリエーションに富んだ道々を歩きます。距離的には車なら10分程度で走破できますが、自分の足なら3～4時間かかります。しかし、歩くからこそ分かることや気づくこと、また感じるものがたくさんあります。眼下に広がる段々畑や目と鼻の先に見える天草の島々、陽光に輝く有明海とたゆたう釣り船など変化に富む光景を楽しみました。畑の土や磯の香りを胸一杯に吸い込み、風が木々を揺らす音や波が岩を叩く音、また小鳥たちのさえずりなど自然が奏でる音にも癒されました。さらに南島原市のスイーツやゴール後に温かいお汁でいただく素麺など、五感が刺激されっぱなしの好日となりました。人工のため池である野田堤、船の安全航行を見守ってきた瀬詰崎灯台や口之津灯台、樹齢300年超もあるアコウ群落など、初めて見たり、知ったりするものばかりで、口之津に住みながらなんと地元に対して無知であるか・・・反省1。もっと便利で快適にと「速・楽・短」を追求することで失っているものもたくさんあるのでしょう。その一つが自分の体力です・・・反省2。

さて、いよいよ平成30年も暮れていきます。皆様にとりまして、どのような一年だったでしょうか。今年は何かにつけ「平成最後の」という冠がつけられていました。平成の時代も今月を含めあと5か月ですね。食品加工会社のキューサイが100歳以上の方々を対象に「平成」を象徴する漢字を聞いたところ、1位は「幸」だったそうです。昭和の戦争を経験した世代にとっては、日常の家族との団らんなどがもたらす平和は、何にも代えがたい「幸」なのでしょう。もし「平成の世を象徴する言葉は？」と聞かれたら、咄嗟に浮かぶのは「デジタル」です。パソコン、スマホ、カーナビ、DVD・・・デジタル機器が社会を席卷していった時代でもありました。

平成元年に私は英語の教員になりましたので、平成の世と共に教員人生を歩んでまいりました。今、感じることは、世界の共通語は英語ではなく、何より“笑顔”だということです。皆様にとりまして、新年もまた“笑顔”溢れる年になりますように。

「笑顔には想像もできないほどの可能性がある」(マザー・テレサ)